

かぎした
柿下遺跡

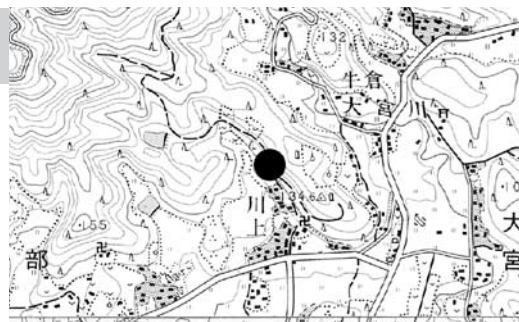
所在地 新城市柿下地内
(北緯34度55分28秒 東経137度30分49秒)

調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線

調査期間 平成20年12月～平成21年3月

調査面積 2,400㎡

担当者 酒井俊彦・永井邦仁



調査地点 (1/2.5万「三河大野・三河富岡」)

調査の経過 発掘調査は第二東名高速道路建設工事の事前調査として愛知県教育委員会を通じた委託事業である。茶臼山南麓の山林が調査対象となり、遺跡を横切る砂防ダムから南東側を08A区、北西側を08B区として実施した。

立地と環境 茶臼山山頂は標高約142mで周囲の河岸段丘より少し高くかつ背後の雁峰山系(標高約450～660m)からやや独立したような山形をしており周囲からも目立つ。頂上には経塚(城山経塚)があり陶製経筒と直刀が出土している。また東側斜面には横穴式石室の古墳が3基(茶臼山古墳群)確認され7世紀前半の須恵器が出土している。遺跡は山裾の標高92～97mの斜面地に展開する。この斜面地には、河川堆積の砂層の上に形成された「黒ボク」と呼ばれる黒色土層が広がる。遺構検出は主として「黒ボク」層上面で行なった。

調査の概要 調査区内には地表面で3～4段の平場があったが、近年の植林時に土盛りされたものもありこれらを除いたところ、08A・B区ともに検出時には上下2段の平場となった。上段の平場は狭いが、08B区では鎌倉時代の陶器片や土師器皿が出土する竪穴状遺構がある。08A区では江戸時代前期の土師器鍋が出土したもののほとんどが旧表土からで、遺構は少ない。下段の平場は、08A区では約250㎡、08Bb区では約370㎡ある。この平場上では、直径20～30cmの柱穴で構成される掘立柱建物跡が7棟検出できた。

鎌倉時代 08Bb区上段の平場では竪穴状遺構を検出した。一辺約3mの隅丸正方形で明瞭な柱穴は伴わない。柱穴(08Bb区084SK)からは完存状態に近い山茶碗が出土しており、この柱穴を伴う建物の時期は中世前半と考えられる。08Bb区北西隅では約5.5×6m規模の周溝を伴う1×1間(一辺約2m)の小型建物も検出され、小堂の可能性も考えられるが、宗教関係の遺物は出土していない。なおこの小型建物は他の掘立柱建物とは向きが異なるが、竪穴状遺構とはほぼ同じである。他に08Ba区北端で青磁碗片が出土した。

戦国時代から江戸時代 16世紀後半から18世紀代までの土師器鍋・皿を主体とする遺物が08A区を中心に比較的上層から出土した。ほとんどが江戸時代前～中期のものである。掘立柱建物のいくつかはこの時期に含まれるであろう。(永井邦仁)



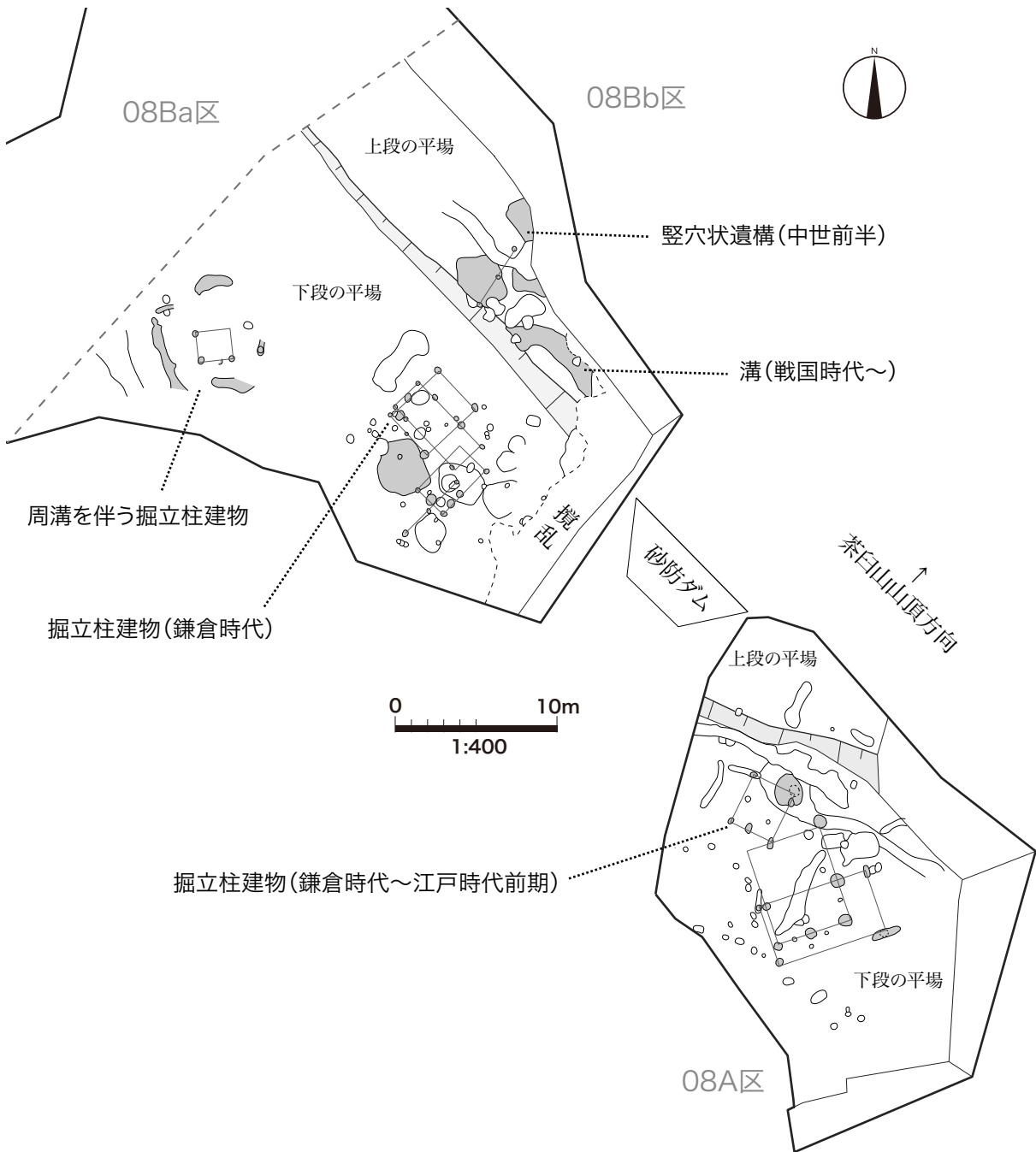
調査区全景(西から)



08Bb区 周溝を伴う掘立柱建物(北から)



08Ba区 遺構検出状況(北から)



柿下遺跡08A・Bb区遺構配置図